

始めよう。生活見直し



生活が便利になる一方で増えるごみ量。生活様式の変化は、ごみの質にもさまざまな影響をみせています。スーパーのビニール袋、トレイ類などの発砲スチロールやペットボトルをはじめとするプラスチック製品、缶などなど。市では、これを環境にやさしく処理し、限られた資源を保ち続けることを目的にごみの「資源化、減量化」を図るため、二年前からモデル地区を指定して、市民と町内会と市役所が協力し合って分別収集を取り組んできました。

ごみの分別収集モデル地区事業は市内五地区で各五百世帯前後を対象にすすめ、平成九年度には、全市で実施することとしています。

ごみは生きもの 減量化で明るい 街づくり



木幸治さん
清掃指導員

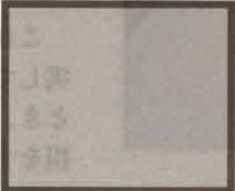
毎日ごみを収集して一番こまるのは、生ごみの水切りなどしていないときに頭からごみをかぶったり、手にケガをしたりすること。それでも「ご苦労様」の声がかけられ、ステーションのまわりを掃いてもらったりするとうれしく、がんばらねばと励みになります。

北部地区六百五十世帯と南部地区五百世帯の合計と市内全域のごみの一世帯平均と一人あたり埋立量を比べてみましょう。モデル地区では、一般ごみ・資源ごみ・粗大ごみ・危険ごみに分けています。昨年実績では、ごみの一％から一二％を超えて資源化がされました。埋立量で比較しても

一世帯あたりでは、全市民平均の八七％、一人あたりでは、七七％程度にとどまっています。

モデル地区のこうした実践活動とともに、市役所でも、平成十年度に新しい方式の処分場建設の計画整備など大きな課題があります。今こそ、ごみ処理に対する考えを深め、みんなで協力し合い、「清潔できれいなまちづくり」に立ちあがらなければなりません。

ごみは、私たちの暮らしに大きくかわる。生きものなのです。



自家処理と再生利用 みんなの自覚 で実行へ

又、ごみの出し方にも大きな問題がありそうです。ステーションや集積所に出されるごみにはこん包もされずに風などで飛ばされているもの、収集日や時間が守られずにカラス等によって散乱しているものがあります。山林や河川へ不法に投げすてられることもあります。



各家庭から出るごみ。チリもつもれば山となる。のたとえで、だす側にとっても集めて処分する側にとっても大きな課題。大切な財源・天井知らずに多額になる

費用も私たちの心がけて解決できるのではないでしょう。うか。それにはごみの絶対量を減らす努力が大切です。モデル地区の実践は、多くのことを教えてくれるようです。

コンポスト化の容器購入助成枠残りわずかです

